

社会潮流の変化 (序論 第3章 4)

- (1) 人口減少、少子高齢化の進展
- (2) 経済のグローバル化と情報化の進展
- (3) 安全・安心な暮らしへの備え
- (4) 地球環境問題と地域での環境共生
- (5) 成熟社会の進展と格差社会の問題
- (6) 子どもを取り巻く社会環境の変化
- (7) 地域社会の再生と協働の推進
- (8) 都市間競争の激化と広域都市戦略
- (9) 自立と分権型社会の形成

蒲郡市の特性 (序論 第3章 2)

蒲郡市の概況	
【位置】	鉄道・幹線道路が整備され交通至便
【自然的条件】	海や山に囲まれ 自然の恵みが豊か
【まちの形成】	コンパクトな市街地が自然環境と共生
【産業】	フルーツ栽培や繊維ロープ製造、観光関連産業が盛ん。医療機器等の最先端企業立地、国際貿易港
【観光資源】	温泉、自然を生かしたテーマパーク、マリレジャーなどの
【歴史・文化】	文化財も数多く残り、文化施設が充実
データからみた蒲郡市の特性	
	人口はゆるやかに減少傾向が続いている
	県平均を上回るペースで高齢化が進展
	就業人口が減少傾向、総生産額は横ばい
	改善が進むものの、依然として厳しい財政状況
市民意識	
【住みやすさ】	評価が高く、今後の定住意向も高い
【将来像】	「住環境の良さ」「自然環境との調和」など
【施策の優先度】	地域医療体制、高齢者福祉、子育て支援、省エネ、公害対策、公共交通、幹線道路などの施策への優先度が高い

蒲郡市の主要課題 (序論 第4章)

- (1) 安心して暮らし続けることができること
 - ・市民病院の経営安定化、福祉基盤の充実
 - ・高齢者や障がい者が自立する環境づくり
 - ・子どもを産み育てやすい環境づくり
- (2) 安全で便利に暮らし続けることができること
 - ・災害に強い家屋や地域づくり
 - ・犯罪者に狙われない、交通事故がない環境づくり
 - ・公共交通、生活道路の充実
- (3) 個性を活かして産業の活力を高めること
 - ・観光資源、港の活用、先端産業、生活サービス業振興など地域経済基盤強化
 - ・農工商や観光が連携
 - ・観光コンベンション関連の新産業創出
 - ・港湾や道路基盤の充実
- (4) 海・山の環境と調和して持続性を高めること
 - ・環境負荷の少ないライフスタイル、事業活動の推進
 - ・自然豊かな環境都市形成
 - ・公園緑地や親水空間による美しい都市、自然景観形成
- (5) 独自の地域文化を守り育てること
 - ・歴史・文化遺産を守り育てる
 - ・品格ある文化都市のブランド確立
- (6) 自ら学び地域で活躍する人材を育むこと
 - ・思いやりがある教育
 - ・地域・家庭・学校が連携して子育て・教育
 - ・生涯学習や社会貢献への市民の参加
 - ・コミュニティ活動の活性化
- (7) 参加と協働により自立を目指すこと
 - ・協働のまちづくり、お互いを尊重した地域社会づくり
 - ・行財政運営の効率化
 - ・安定的な財源確保を図るための都市経営の強化

基本理念と将来像 (基本構想第1章)

基本理念

- ・人と自然の共生
- ・安全・安心・快適
- ・人づくり
- ・明るく元気
- ・協働・交流

将来都市像

「(仮)三河湾に輝く 人と自然が共生するまち 蒲郡」

将来人口 目標 8万人

基本目標・施策の大綱 (基本構想第1・2章)

1. 笑顔で安心して暮らせる まちづくり(健康・福祉)			
健康づくり	地域医療	子育て支援	
高齢者支援	障がい者支援		
生活自立支援	保険・医療費助成		
2. 賑わいと元気あふれる まちづくり(産業)			
農林業	水産業	工業	商業・サービス業
新産業	観光	競艇	雇用
			消費者保護
3. 安全で快適な魅力ある まちづくり(都市基盤・安全)			
道路	公共交通	市街地整備	住宅
都市景観	港湾・海岸	河川・排水	
消防・救急	防災	防犯	交通安全
4. 美しい自然を未来につなぐ まちづくり(環境・生活基盤)			
公園・緑地	自然保護・緑化	環境保全	
環境衛生	循環型社会形成	地球温暖化対策	
水資源	下水道		
5. こころ豊かに夢をはぐくむ まちづくり(教育・文化)			
学校教育	生涯学習	文化・芸術	スポーツ
6. 市民とともに歩む まちづくり(協働・行財政運営)			
市民協働	地域コミュニティ	男女共同参画	
多文化共生	地域情報化	広報・広聴	
広域行政	行政	財政	